2014・8 **古井由吉「辻」（新潮文庫）／「鐘の渡り」（新潮社）**

芥川賞を１９７１年に「杳子」という作品で受賞した作家。戦後文学史の中では「内向の世代」と呼ばれているグループ（後藤明生、日野啓三、黒井千次、阿部昭といったすぐれた小説家がいる）に属するが、作品に共通する主張があるわけではない。

**古井由吉は「杳子」以来、一貫して、一そこの辻を曲がったところにある非日常一とでも言うべき世界を描き続けている。**ここに紹介した２冊は、両方とも短編集。特に「鐘の渡　中の世界なのではないかという、息が詰まりそうな描写なのだ。まあ、一度チャレンジしてみてください。（館長）